指標 1

A）入院患者の転倒・転落発生率
B）治療を必要とする転倒・転落発生率

Outcome

指標の意義

・転倒・転落を予防し、外傷を軽減するための指標。特に、治療が必要な患者を把握していく。

指標の計算式、分母・分子の解釈

・**収集期間**：１ヶ月毎　・**調整方法**：‰（パーミル、千分率）表示

	各指標の計算式と分母・分子の項目名	分母・分子の解釈
分　子	A）報告のあった入院患者の転倒・転落件数、B）治療を必要とする転倒・転落件数	B）はレベルの定義なし。「治療が必要な場合」の全てを算出する。画像検査を実施して異状がない場合は除く（画像など検査だけの場合は除く）。
分　母	入院患者延数（24時在院患者＋退院患者数の合計）	

考察

【2012年　年間数値報告】

A）最小値0.76‰　25%値3.38‰　中央値4.42‰　75%値5.74‰　最大値10.87‰

B）最小値0.00‰　25%値0.11‰　中央値0.26‰　75%値0.43‰　最大値0.96‰

（参照）2011年

A）最小値0.51‰　25%値3.25‰　中央値4.33‰　75%値5.51‰　最大値9.74‰

B）最小値0.00‰　25%値0.11‰　中央値0.22‰　75%値0.39‰　最大値0.81‰

【考察・分析】

全体評価としては、A・B共に昨年度中央値より、わずかに増加していました。転倒・転落発生率の高い10病院を見ると、A・Bが共に高値である病院が4病院ありました。一般的には転倒・転落発生のリスクが高いと思われがちな回復期リハや障害者病床のような病床も所有していました。

しかしながら、同様に許可病床数の半数以上がそのような病床であった場合でも、転倒・転落発生率が非常に少ない病院もありました。入院患者の高齢化にともない、必ずしも病床区分によって転倒・転落発生率が高くなるとは言い切れないということがわかりました。

A）について、今年度報告件数の多い10病院のうち4病院は、昨年度も10病院に含まれていました。

B）について、今年度報告件数の多い10病院のうち、昨年度も同様に10病院に入っていたのは、1病院のみでした。改善の成果だと考えられます。

転倒・転落の対策については、様々な意見があります。特に、入院患者の高齢化が進む中、転倒・転落が一定の割合で避けられないとも考えられます。

入院患者のADLによっても変化しうるものであります。高齢化にともない、常時、ベッド臥床の患者が増加すれば、転倒・転落率は減少すると考えられます。

転倒・転落は、「起こりうることとして」、その要因を減らすことが基本的な課題であり、リスク評価、回避のための環境整備、事故発生時の損傷を出来るだけ軽減する取り組み、繰り返し発生させないためのリスクアセスメントをおこなうことが重要です。

高齢者総合機能評価（CGA）を積極的に活用し、評価を絡めた分析を行い、治療の必要としない転倒・転落に誘導することを含めた、今後の防止対策が必要です。

改善事例

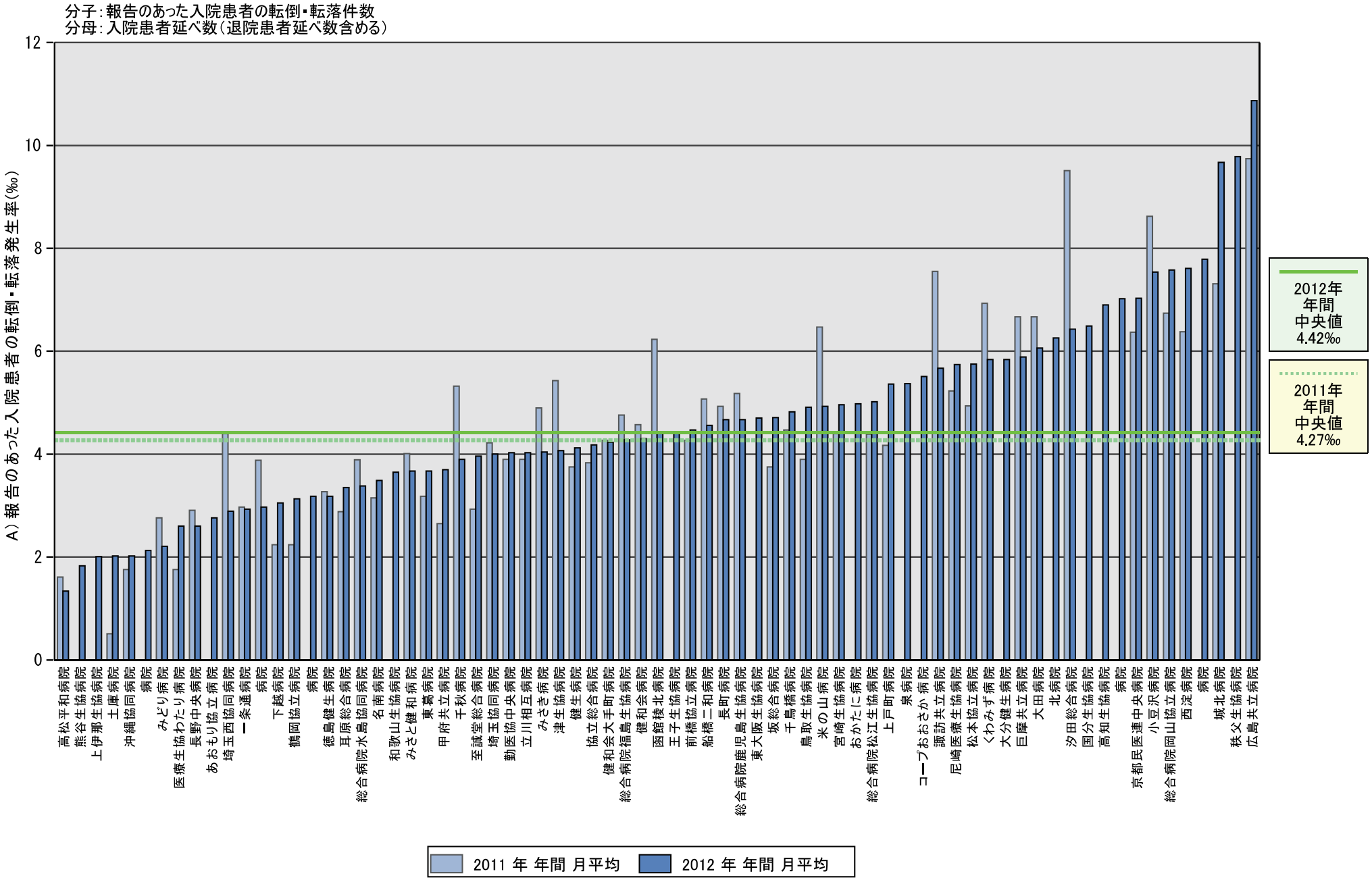
・医療安全委員会より転倒・転落防止に向けてのお知らせ文書配布。

・転倒転落件数が、電子カルテ上、把握出来ないので、紙で記載してあげるようにしてから、件数把握、発生時の状況が分かりるようになった。理学療法士が１週間、毎日15分間、全職員むけに勉強会を開催して、職員の意識も上がった。

指標1	A）入院患者延べ数（24時在院患者＋退院患者数の合計）		A）入院患者の転倒・転落件数		B）治療を必要とする転倒・転落件数		A）入院患者の転倒・転落発生率		B）治療を必要とする転倒・転落発生率	
	2011年	2012年	2011年	2012年	2011年	2012年	2011年	2012年	2011年	2012年
勤医協中央病院	10994	11042	43	45	2	1	3.90	4.03	0.14	0.10
一条通病院	4296	4236	13	12	0	0	2.97	2.93	0.08	0.06
函館稜北病院	2824	2863	18	13	1	1	6.23	4.42	0.27	0.20
健生病院	8709	8658	33	36	1	1	3.75	4.12	0.07	0.08
あおもり協立病院	—	6996	—	19	—	4	—	2.76	—	0.51
坂総合病院	10206	10040	38	47	1	1	3.75	4.71	0.07	0.09
長町病院	3918	3662	19	17	1	1	4.93	4.67	0.36	0.23
泉病院	—	2296	—	12	—	1	—	5.37	—	0.29
鶴岡協立病院	5431	5300	12	17	0	0	2.24	3.13	0.00	0.02
至誠堂総合病院	6789	6835	20	27	0	0	2.93	3.96	0.01	0.06
医療生協わたり病院	5239	4995	9	13	0	0	1.76	2.60	0.00	0.00
前橋協立病院	5440	5440	23	24	1	1	4.27	4.47	0.17	0.25
埼玉協同病院	10197	9910	43	40	1	2	4.22	4.00	0.11	0.18
埼玉西協同病院	1365	1357	6	4	0	0	4.40	2.89	0.00	0.31
熊谷生協病院	—	2333	—	4	—	0	—	1.83	—	0.08
秩父生協病院	—	1551	—	15	—	1	—	9.78	—	0.49
船橋二和病院	7839	7397	40	34	3	2	5.07	4.56	0.35	0.33
みさと健和病院	7334	7412	29	27	0	1	4.01	3.67	0.05	0.10
小豆沢病院	3576	3811	31	29	2	2	8.62	7.54	0.51	0.61
大田病院	5694	5745	38	35	2	2	6.67	6.06	0.35	0.30
東葛病院	9010	9183	29	34	0	1	3.18	3.67	0.05	0.11
立川相互病院	9400	9482	37	38	5	3	3.90	4.03	0.58	0.26
王子生協病院	—	3228	—	14	—	1	—	4.43	—	0.31
汐田総合病院	7176	7218	68	46	2	2	9.51	6.43	0.21	0.25
下越病院	8004	7614	18	23	1	1	2.24	3.05	0.16	0.12
城北病院	7794	7831	57	76	5	5	7.31	9.67	0.65	0.65
甲府共立病院	7719	7560	20	28	1	1	2.65	3.70	0.18	0.08
巨摩共立病院	4370	4076	29	25	0	—	6.67	5.89	0.10	—
長野中央病院	9235	9149	27	24	0	9	2.91	2.60	0.03	0.96
健和会病院	5705	5655	26	24	2	3	4.57	4.30	0.41	0.44
諏訪共立病院	2992	2955	23	17	1	2	7.55	5.67	0.36	0.56
松本協立病院	5444	5246	27	30	1	1	4.94	5.75	0.17	0.17
上伊那生協病院	—	3933	—	8	—	1	—	2.01	—	0.18
みどり病院	2473	2530	7	6	1	1	2.76	2.21	0.54	0.33
協立総合病院	10475	10194	40	43	2	2	3.83	4.18	0.19	0.17
北病院	—	976	—	6	—	1	—	6.26	—	0.68
名南病院	3972	4030	13	14	2	2	3.15	3.49	0.50	0.48
千秋病院	7012	7093	37	28	2	1	5.32	3.90	0.24	0.19
津生協病院	4280	4221	23	17	2	1	5.43	4.07	0.35	0.22
京都民医連中央病院	9203	11804	59	83	1	0	6.37	7.03	0.13	0.04

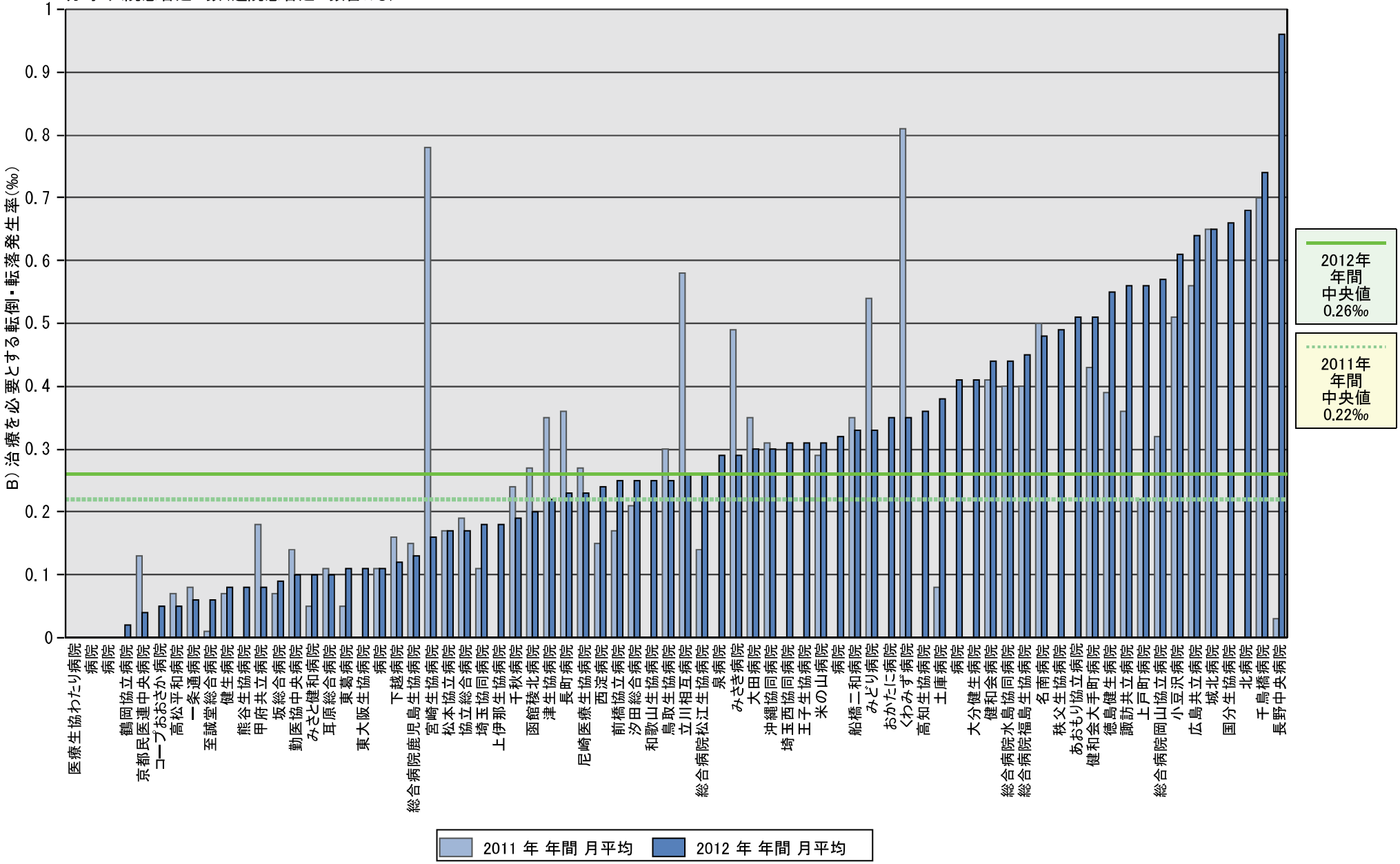
指標1	A）入院患者延べ数（24時在院患者＋退院患者数の合計）		A）入院患者の転倒・転落件数		B）治療を必要とする転倒・転落件数		A）入院患者の転倒・転落発生率		B）治療を必要とする転倒・転落発生率	
	2011年	2012年	2011年	2012年	2011年	2012年	2011年	2012年	2011年	2012年
東大阪生協病院	—	2911	—	14	—	0	—	4.70	—	0.11
西淀病院	6578	6580	43	50	1	2	6.38	7.61	0.15	0.24
耳原総合病院	9473	9691	27	33	1	1	2.88	3.35	0.11	0.10
コープおおさか病院	—	4734	—	26	—	0	—	5.51	—	0.05
尼崎医療生協病院	5479	5414	29	31	2	1	5.23	5.74	0.27	0.23
おかたに病院	—	4332	—	22	—	2	—	4.98	—	0.35
土庫病院	5432	5309	3	11	0	2	0.51	2.02	0.08	0.38
和歌山生協病院	—	3926	—	14	—	1	—	3.65	—	0.25
鳥取生協病院	7406	7116	29	35	2	2	3.90	4.91	0.30	0.25
総合病院松江生協病院	8700	8783	38	46	1	2	4.39	5.02	0.14	0.26
総合病院水島協同病院	7308	7085	28	24	3	3	3.89	3.38	0.40	0.44
総合病院岡山協立病院	8465	8554	57	65	3	5	6.74	7.58	0.32	0.57
総合病院福島生協病院	4185	4104	20	18	2	2	4.76	4.28	0.40	0.45
広島共立病院	5528	5582	54	61	3	4	9.74	10.87	0.56	0.64
徳島健生病院	4945	4722	16	15	2	3	3.27	3.18	0.39	0.55
高松平和病院	3407	3351	6	5	0	0	1.61	1.34	0.07	0.05
高知生協病院	—	3379	—	23	—	1	—	6.90	—	0.36
健和会大手町病院	17004	16598	73	70	7	9	4.27	4.23	0.43	0.51
千鳥橋病院	9355	9298	42	45	7	7	4.47	4.82	0.70	0.74
米の山病院	6345	6369	41	31	2	2	6.47	4.93	0.29	0.31
みさき病院	4347	4312	21	17	2	1	4.90	4.04	0.49	0.29
上戸町病院	3098	2846	13	15	1	2	4.17	5.36	0.22	0.56
くわみず病院	2742	2827	19	17	2	1	6.93	5.84	0.81	0.35
大分健生病院	—	3290	—	19	—	1	—	5.84	—	0.41
宮崎生協病院	3086	3160	14	16	2	1	4.40	4.96	0.78	0.16
総合病院鹿児島生協病院	9176	9244	47	43	1	1	5.18	4.67	0.15	0.13
国分生協病院	—	3778	—	25	—	3	—	6.49	—	0.66
沖縄協同病院	8647	8242	15	17	3	3	1.76	2.02	0.31	0.30
	—	4643	—	—	—	—	—	—	—	—
	—	6103	—	13	—	0	—	2.13	—	0.00
	—	2423	—	17	—	0	—	7.02	—	0.00
	—	3385	—	26	—	1	—	7.79	—	0.41
	—	9125	—	29	—	3	—	3.18	—	0.32
	4462	4379	17	13	1	1	3.88	2.97	0.11	0.11
最小値							0.51	1.34	0.00	0.00
25%値							3.23	3.38	0.11	0.11
中央値							4.27	4.42	0.22	0.26
75%値							5.38	5.74	0.40	0.42
最大値							9.74	10.87	0.81	0.96
	人	人	件	件	件	件	‰	‰	‰	‰

指標1:　A)報告のあった入院患者の転倒・転落発生率

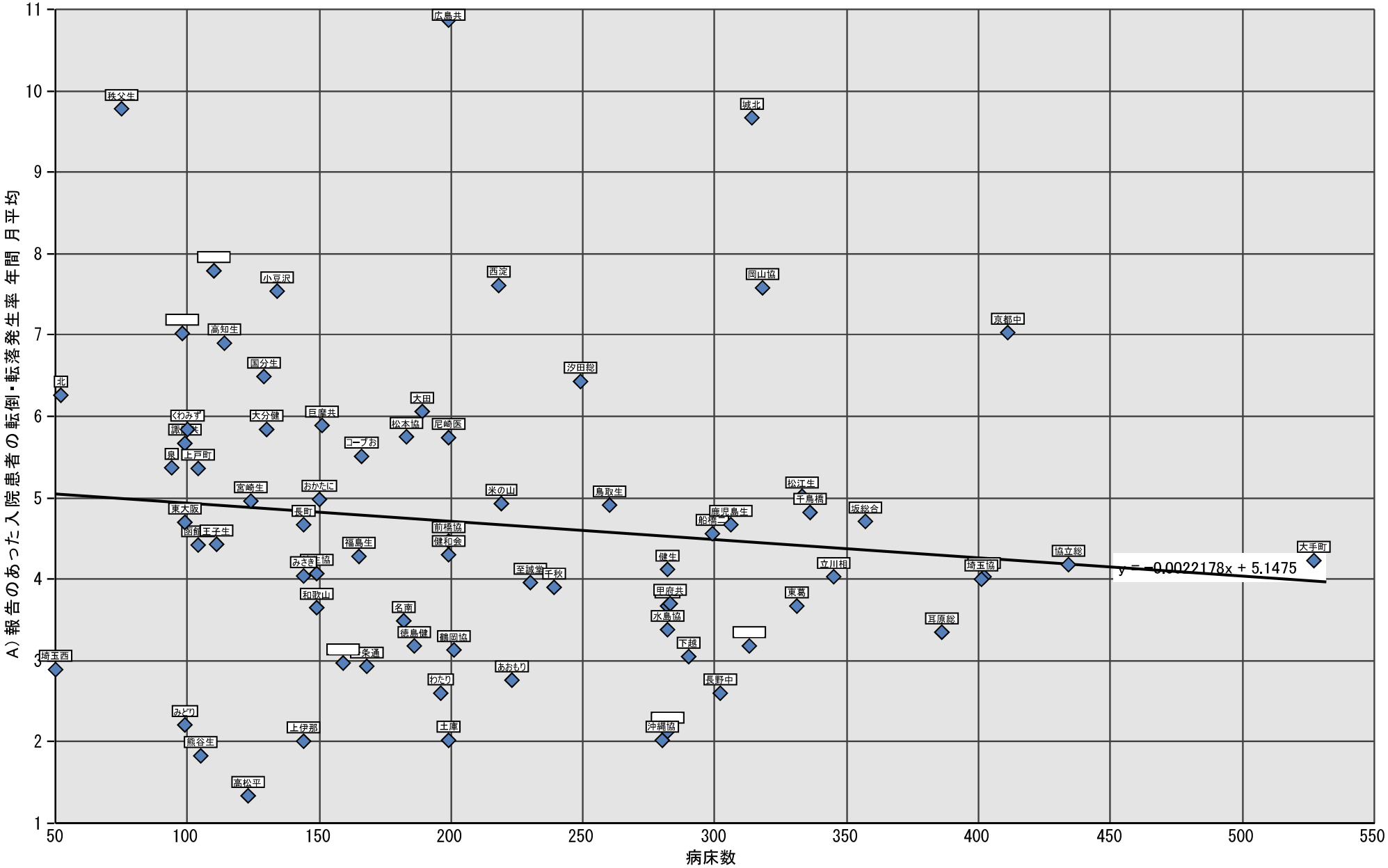


指標1:　B）治療を必要とする転倒・転落発生率

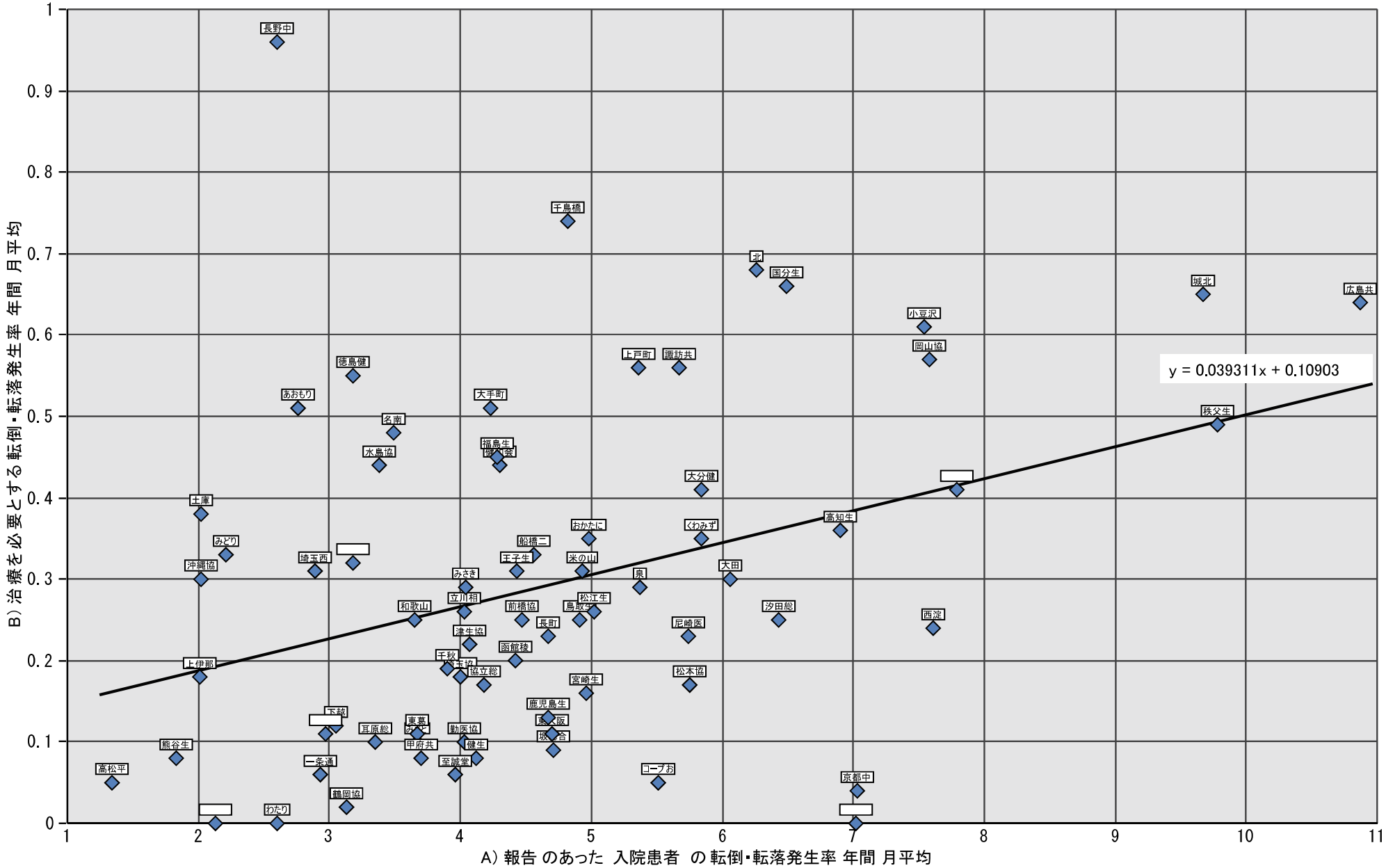
分子：治療を必要とする転倒・転落件数
分母：入院患者延べ数（退院患者延べ数含める）



指標1:　A）報告のあった入院患者の転倒・転落発生率

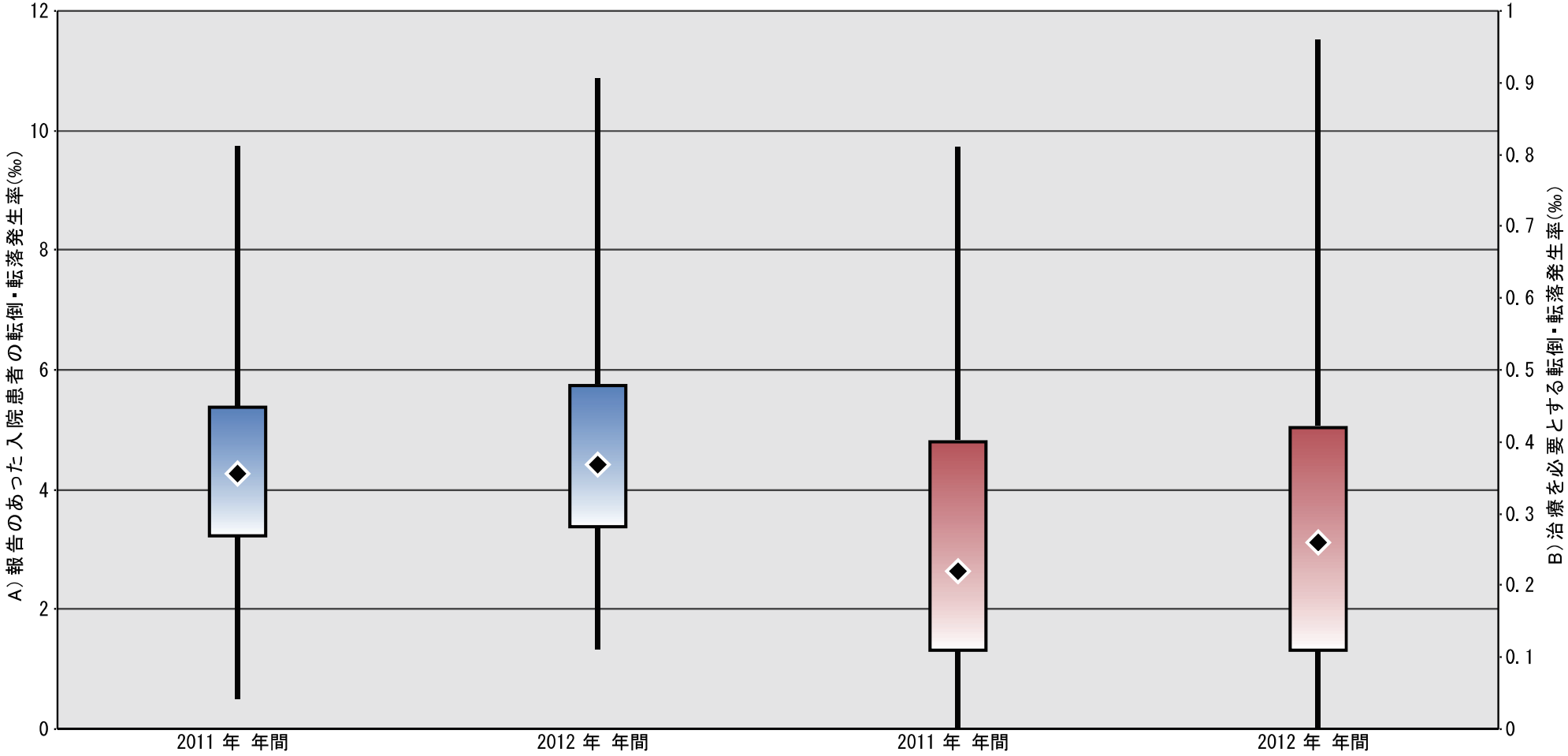


指標1:　A）報告のあった入院患者の転倒・転落発生率
B）治療を必要とする転倒・転落発生率



指標1:　A)報告のあった入院患者の転倒・転落発生率
B)治療を必要とする転倒・転落発生率

分子:報告のあった入院患者の転倒・転落件数 分母:入院患者延べ数(退院患者延べ数含める)	分子:治療を必要とする転倒・転落件数 分母:入院患者延べ数(退院患者延べ数含める)



	A)報告のあった入院患者の転倒・転落発生率		B)治療を必要とする転倒・転落発生率	
最小値	0.51	1.34	0.00	0.00
25%値	3.23	3.38	0.11	0.11
◆ 中央値	4.27	4.42	0.22	0.26
75%値	5.38	5.74	0.40	0.42
最大値	9.74	10.87	0.81	0.96
● 自病院	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)